

第 43 回 日本気象学会九州支部発表会 プログラム

日時:2022 年 3 月 6 日(日) 9 時 20 分~17 時 30 分

Zoom によるオンライン開催

Zoom 接続開始(09:00)

開会 (09:20)

開会の挨拶 (09:20)

講演 (各項目とも講演15分、質疑応答5分 *は発表者) 要旨集ページ

セッション1 降水システム (09:30~10:10)

1. 新しい粒子撮像ゾンデの開発と降水粒子落下速度測定 ----- 1
*鈴木賢士(山口大学院創成)、根間綾香・原優里佳(山口大学農)、
杉立卓治・清水健作(明星電気(株))、藤原正智(北海道大学環境)
2. 降雪粒子直接観測およびリモートセンシングを用いた
降水雲内の微物理構造の解明に向けた観測研究 ----- 3
*竈本倫平・高見和弥(鉄道総合技術研究所)、鈴木賢士(山口大学院創成)、
古川郁将(山口大学農)

セッション2 メソ気象 (10:10~10:30)

3. 2020年3月28日に奄美大島で発生した突風事例の解析 ----- 5
*樋田裕輝・川野哲也・川村隆一・望月崇(九州大学院理)

休憩 (5分)

セッション3 気候システム (10:35~11:15)

4. 北太平洋とユーラシア付近の大気海洋の振動が
日本の冬季の気温変動に与える影響 ----- 7
*川上真・望月崇・川村隆一・川野哲也(九州大学院理)
5. 機械学習のクラスタリング技術を用いたアリソフ気候区分の改訂 ----- 8
*島袋琉(熊本大学院自然科学教育部)、富田智彦(熊本大学院先端科学研究部)、
福井健一(大阪大学産業科学研究所)

セッション4 観測技術 (11:15~11:55)

6. 曇み込みニューラルネットによる定点画像の天気判定 ----- 10
*徳丸実希(熊本大学理学部)、富田智彦(熊本大学院先端科学研究部)

7. 地面の運動に伴って励起される大気ラム波観測のための

微気圧観測システムの開発

----- 12

* 今田衣美 (九州大学理学部)、中島健介 (九州大学院理学研究院)

昼休憩 (13時まで)

※支部奨励賞は該当者なし

特別講演 (13:00~13:50) 太平洋十年規模変動の気候影響

時長宏樹 (九州大学応用力学研究所 地球環境力学部門 教授)

休憩 (10分)

ジュニアセッション (14:00~15:40)

(講演 15 分、質疑応答 5 分 氏名の後の括弧内数字は学年)

J1. 「大場美佐の日記」の江戸期の「降水率」を推定する

～「詳細率」を使った天候復元の試み～

池田学園池田高等学校 (鹿児島市)

安藤琉偉(2)、萩原柊子(2)、呉虹洋(2)、林田吏央(2)、江口美蘭(2)、羽牟祐輔(2)、
日高海桜(2)、矢野秋(2)、荒瀬ひかり(2)、後堂莉乃(1)、吉田りあ(1)、西村元一(1)、
脇田悠生(1)、杉山夢子(1)、谷口智哉(1)、龍造寺萌心(1)

J2. 「令和3年8月の大雨」の分析

佐賀県立佐賀北高等学校 (佐賀市)

池田彩香(2)、石原はる花(2)、永渕実優(2)

J3. 桜島の降灰と風向の季節変動に関する研究

～エクマンの吹送流との関連性を中心に～

鹿児島県立国分高等学校 (国分市)

松尾侑佳(2)、石崎正博(2)、柏木結月(2)、古川小春(2)、水野遥斗(2)、
鮫島吉之介(2)、田島一樹(2)

J4. 知らない現象 (不知火現象) を科学する 4

～不知火現象は、単なる夜の浮島現象なのか?～

熊本県立宇土高等学校 (宇土市)

柳田眞太郎(2)、新宅結衣(2)、松尾典明(2)、秦敬一朗(2)、永井和(2)、中村優斗(2)

J5. 太陽からの受熱量と気象との関係 2

熊本県立熊本北高等学校 (熊本市)

工藤零太(1)、森本弥馬都(1)、荒巻静(2)

休憩（10分）

セッション5 中層大気・オゾン（15:50～17:10）

8. 大規模アンサンブルデータを用いた成層圏における
プラネタリー波の下方伝播の統計解析 ----- 14
* 松山裕矢・廣岡俊彦（九州大学院理）
9. 2021年1月に発生した成層圏突然昇温の力学的背景 ----- 16
* 中村遥暉（九州大学理学部）、廣岡俊彦（九州大学院理）
10. 2021年南極オゾンホールの特徴とその力学的背景場 ----- 18
* 太田朝貴（九州大学理学部）、廣岡俊彦（九州大学院理）
11. 再解析データと衛星データを用いた力学場の比較 ----- 20
* 喜多川太一・廣岡俊彦（九州大学院理）

講評及び閉会の挨拶（17:10）

閉会（17:30）

※講演要旨集に掲載された文章及び図表の著作権は(公社)日本気象学会 九州支部に帰属します